



左から 井上社長、高橋、市川、筒井、萩原、鋒山

モデレーター

明電舎 人事統括本部 人事企画部  
野口 英明

今回の座談会のテーマは、「未来を創る力」。

明電グループにおいて、人財こそが価値創造の源泉であり、持続的な成長に必要不可欠な鍵です。  
そんな当社の従業員がどのような想いととも歩み、キャリアを積み重ねているのか、  
その姿をひも解いていきます。

## これまでのキャリアを振り返って

**筒井** 現在は名古屋工場EVユニット長を務めています。1998年に自動車部品メーカーに就職し、2020年に転職するまでのほとんどの期間で生産技術に携わり、生産技術業務の上流から下流まで幅広くキャリアを積んできました。生産技術には唯一の正解はなく、クリエイティブな面が大いにあります。先人たちのコピーでも製品はできますが、競争力を考えると、他社とは違うことに取ってチャレンジすることが大事です。若手の頃は、大きなラインの設計を担当したものの、製造現場で思うように動作しないことも多々あり、様々な勉強を重ねました。この頃の現場での「できない」とは決して言えない状況下で苦労した経験が私のベースとなっています。2020年に明電舎の名古屋工場EV駆動用モーター・インバーター一体機を量産しようとしていたタイミングでお声掛けいただき、中途入社することになりました。今でこそ1日600台を超える生産ができるようになりましたが、入社直後は1日に10台ほどを作るのがやっと。自動車業界から転職して来た私は、量産を目前に控えた時期でのこの状況に目を丸くした記憶があります(笑)。学生時代は陸上部に所属し、リレー競技で結果を残すことができた原体験から、仕事においても一人ではできないことをチーム一丸で乗り越えるプロセスが大好きです。今は管理職として、メンバーには若いうちからチームで何かを成し遂げ、喜びを分かち合うような経験を積んでもらいたいと思っています。



仕事を通じて明るい未来の実現や  
社会貢献につながる実感が湧く会社に

明電舎 経営企画本部 経営企画部 企画課  
鋒山 直哉

**高橋** 私は2014年に入社しました。学生時代は機械系専攻だったため、知識を活かした構造設計を希望して配属されました。入社当初は語学が苦手と海外に全く興味がなかったのですが、リクルーターとして母校を訪問した際に海外勤務を希望する学生が多いことに衝撃を受けました。それをきっかけに社内の語学研修制度で英会話を学び始め、苦手意識を克服したタイミングで海外トレーニー制度に応募、海外挑戦を決意しました。シンガポールの現地法人に外向することとなったのですが、そこで上司から「電機メーカーにいれば電気設計もできたほうが面白いよ」と勧められ、上司や現地スタッフに教えてもらいながら電気設計も学んでいきました。シンガポール拠点に限られた人数で各人が幅広い業務を担当しており、私自身、鉄道関係の電気設計をやりながら、調達や生産管理に近い業

務など様々な経験をしました。毎日何かしらトラブルが起こるので、解決するたびに知識や経験が増えて楽しかったですし、やればできるという自信にもなりました。電気設計の面白さにも目覚め、帰国後も電気設計の業務を続けています。

**鋒山** 私は2017年に入社し、経営企画部に配属されました。入社4年目で経済産業省へ外向し、国家公務員としてインドやアフリカといった新興国に進出する日本企業を支援するための政策立案・運用に3年間ほど携わりました。現在は明電舎で中期経営計画の策定に従事していますが、社外出向というキャリアを通じて得ることのできた、多角的な視点、広い視野、高い視座から全体を見て仕事に取り組むことの重要性を実感しています。政策というツールを使い、どうやって経済を動かし成長させるか、自国の企業を巻き込みなが

## |特別企画| 社長×従業員座談会

ら大きな流れをどう生み出しているかといった仕事に携わることができたのは、非常に意義深い経験だったと感じています。

**萩原** 私は2013年に入社し、生産技術部で生産拠点のインフラや建物等の維持管理をしています。沼津の工業高校出身で、就職活動の際に明電舎の存在は知っていましたが、正直、何を作っている会社か知りませんでした。高校では電気を専攻しており、工場見学した際に「ここで製造に携わるのだらうな」と思っていたのですが、いざ入社してみたら生産技術部に配属されて驚きました。描いていたキャリアと全く違う道を進んでいますが、新鮮味があって楽しんでいます。ようやく建築等の仕事に慣れてきた2022年に、上司から「新しく中国にEV工場を建設するから見てきてくれ」と言われ、中国で半年間、新工場の建設に携わりました。沼津地区で採用された自分が、まさか海外で仕事するとは夢にも思っていなかったのが、良い経験となりました。こうした経験の積み重ねが、新しいことに挑戦するうえで、「前にもこんなことがあったな」「今回も何とかかな」という前向き

さにつながっていると感じます。これからのキャリアも想定通りとはいかないとは思っていますが、全てを貴重な経験として、先々に活かしていきたいと考えています。

**市川** 私は2021年に入社し、電力インフラ事業の国内営業として、製品は変圧器を担当しています。元々大学でCSRやSDGsなどを学ぶゼミに入っており、また、東日本大震災により仙台市の自宅の水や電気、ガスが止まってしまった体験から、社会の根底を支えるインフラ関連のメーカーに就職希望先を絞っていました。企業を選定するポイントとしては「この人たちと働きたいかどうか」を重視していましたが、採用面接中に感じた直感はとても正しかったと感じています。工場とお客をつなぐ役割を担う営業を希望して配属され、現在は入社4年目ですが、いろいろな案件を任せてもらっています。仕事を進めるなかで経験不足を感じることもありますが、励まし、寄り添ってくれる仲間がいるからこそ積極的に仕事ができていると感じています。今後は電力以外の営業にも挑戦したいですし複数分野を扱う支社・支店での経験も積んでみたいです。



### お客様との信頼関係構築で 世の中に大きく貢献する 製品開発に関わりたい

明電舎 電力インフラ営業・技術本部  
国内営業部 電力第二課  
市川 陽子

**井上社長** 皆さんの話に、私の信念とつながるものを感じました。私は最初の配属が工場の経理部門で、ものづくりの現場に近いところにおり、その後、事業部の企画部門におけるプロジェクト管理や経営企画部での中期経営計画策定を含め、様々な業務を経験してきました。このキャリアパスにおける全ての経験が、いま社長として会社を牽引するうえでの糧になっています。どんな業務でも、それを極めれば全てにつながっていきます。新たな挑戦の機会を得て、自身の想像を超えた経験を積んでいく過程で、それを面白がり、楽しみ、味わいながら成長していく姿が感じられて、大変心強く思いました。明

電グループは「人を大切にする会社」です。この企業文化は、ずっと変わらずに守り続けていきます。同時に、この会社を皆さん一人ひとりが持つ「成し遂げたい夢」を実現できる舞台にしたいというのが、私の考えです。現代の世界は、過去の誰かが夢見た姿を実現したものです。戦後の日本であれば高度経済成長だったかもしれませんが、現代であればSDGsを軸とした「緑豊かな自然と最先端の技術が調和した新しい街づくり」かもしれません。このように描いた「夢」のもとで社会が創られていく中で、抽象的なビジョンを具体的な形に変えていくのが我々メーカーの仕事です。単なる製造機能としての機器づくりだけではなく、想い描かれる社会を具現化するための価値提供をしていくことも、明電グループの使命です。そのためには私たちも「夢」を語っていかなくてはなりませんし、各人がその実現に向けた「想い」を持っていないと、お客様への提供価値にはつながりません。各個人の「夢」を企業理念やビジョンで束ね、明電グループの「夢」として形にしながら、お客様へ提供していきたいですね。

### 生き生きと働ける 作業空間の提供で、 お客様への価値提供に つながりたい

明電舎 生産統括本部  
生産技術部 施設課  
萩原 慎



## それぞれの実現したい「夢」

**市川** 私の夢は、「この仕事は明電舎でないとやれないよ」と言ってもらえるような会社にすることです。まずは自分とお客様との信頼関係を築き上げ、お客様が潜在的に求めているものを引き出し、的確に工場へ伝える力を養いたいです。お客様に「こういうのが欲しかった」と心から喜んでいただけたら嬉しいですね。担当する案件も、経験を積んでどんどん規模の大きなものに挑戦していきたいです。そして、いつの日か世の中に大きく貢献できる新製品の開発に営業として関わりたいと願っています。一つひとつの積み重ねが信頼関係の形成につながりますので、初心を忘れず、基本を疎かにせず、お客様や工場の方々と関わっていきます。たくさんの人に支えられてここまで来たので、未来の後輩たちにも同様に接し、みんなが働きやすく雰囲気の良い職場にしていきたいです。そのために自分ができることを毎日コツコツと積み上げていきます。

**萩原** 私にとってのお客様は明電グループの従業員であり、実際に工場で作業される方々が、生き生き

と働ける空間を提供していくのが私の夢です。私が現場の皆さんにより良いものを提供することができれば、結果としてお客様にもより良い価値が提供されると信じています。一つの工場の中にも製造、試験、生産管理、設計など、多様な立場の方がいて、それぞれ必要なことも違います。自分が良かれと思って提供したものが、その人にとっては使いづらいことも起こりえます。そのため、様々な部署の方々とコミュニケーションを取りながら日々試行錯誤しています。先ほど鋒山さんが言っていたように、多角的な視点を身につけたいと考えています。明電グループで働く方々が、定年まで働きたいと思えるような職場環境を提供し続けたいと思います。

**鋒山** 明電グループが目指す未来に従業員全員が共感し、グループで働くこと自体が明るい未来の実現や社会貢献につながっていると思えるような会社にするのが、私の夢です。そんな会社であればこそ、社会に対して持続的な価値提供をしていくことができ、私たちの技術や製品が今以上に人々の生活にとって欠かせないものとなり、便利さを支え、暮らしを豊かにする—そんな世界を実現することができると信じています。出向時に訪れたインドやアフリカなど、今まさに急成長を遂げている国々を見てきて肌で感じたのは、変化と成長の激しさ、そして圧倒的な熱量でした。それらに驚かされる一方で、日本に目を向けると、未来に対する不安感や漠然とした閉塞感が漂っていると感じ、変化の必要





### 働く仲間たちに目を配り、 どんな立場の人も 安心して働ける職場に

明電舎 装置工場  
システム装置ユニット 電気設計部  
高橋 百合子

性を強く感じました。この閉塞感をどうすれば打破できるのかを考えるとき、多くの人々が共通の未来を想い描き、その実現に向けて自分が何をすべきかを真剣に考えることが大切ではないかと思いました。全員が同じ方向を目指し、主体的に動きながら、対話を重ねて困難を乗り越える、明電グループをそんな会社に変えていくことで、世の中に対してインパクトを与えていきたいと考えています。

**高橋** 私の夢は、もう少し身近なものです。入社後に配属された部署には、私の他に女性の設計者がいませんでした。もちろん温かく迎えていただいて、同僚からは「長く働いて欲しい」という言葉をもらっていましたが、いざ仕事してみると、将来家庭を持った際に、両立することは物理的に難しいのでは？と感じてしまうことも多くありました。しかし、シンガポールに行ったことで、その考えがガラリと変わりました。現地では子育てをしながらバリバリ働く女性エンジニアがいっぱいいて、すごく希望が持てたのです。この感覚を、日本の職場にも広げていくのが私の夢です。職場でも後輩の女性が少しずつ増えて

いますが、以前の私と同じような不安や悩みを抱える人が多いようです。一つの職場しか見ていないと、どうしても視野が狭まってしまうのかもしれない。どんな部署や職種でも、そういう悩みを持たずに安心して働ける会社になりたいです。人それぞれ、立場も境遇も違いますし、考え方も異なりますが、働き方はみんな違って構わないし、結果の出し方やそこに辿り着くまでのプロセスも違っていいと思っています。私自身も、入社当時には想定していなかったキャリアパスが自分の人生を大きく変えたと思っていますので、「チャレンジも面白いよ」ということも伝えたいです。働く仲間たちにも気を配り、それぞれの立場で困っていることや不便なことがないか想像力を働かせながら積極的に職場や働き方を改善していきたいと思います。

**筒井** やはり明電舎に入社したからには、「明電舎の製品でないといけない」とお客様に言ってもらいたいです。お客様のその評価が、自分たちの仕事への「やりがい」にもつながると思っています。製造部門のリーダーとして夢を実現するためには、私が率いる現場だけで

はなく、営業、製品開発、生産技術、調達など、全部門が有機的につながらないといけません。そのためには現場からの情報発信は必要不可欠だと考えています。受注生産の歴史が長い明電舎の中で、EV事業は新たな挑戦です。中途入社した当初の私は課題が多々見えても、気を遣って少し意見を控えようかと考えていましたが、自身の性格もあり、入社から1か月後には自分の意見を関係者の皆さんにぶつけていました(笑)。皆さんは、そんな新参者である私の意見にもきちんと耳を傾け、行動に移してくれたため、「これだけ歴史が長い会社なのに懐が深いな」と感動したことを覚えています。躊躇せず発信し、同じ夢を実現したいという想いがしっかり社内でも共有できていることが大きな力を生みます。この会社なら、自分の夢も関係する皆さんと一緒に叶えられるという確信があります。入社当初は、1日200台以上

### チーム一丸で 「明電舎の製品でないと いけない」と言われる ものづくりを

明電舎 名古屋工場 EVユニット  
筒井 悟史



のユニット生産を目標に掲げる一方、10台の実力しかありませんでしたので、高い目標と現実との乖離に現場は疲弊していました。それでも「できない」という言葉が大嫌いな私は、「できないと言いたくなるネガティブな要素も受け止めて、できるようにする方法を考えよう」と、根気強く『ブレークスルー思考』を発信し続けました。すぐには無理でも、いつか達成できるようになるためにやるべきことを話し合い、実行に移す中で、徐々に生産台数が増えていきました。「筒井さん、できるようになったね!」という嬉しいような声が聞こえてくると、チームで喜びを分かち合う醍醐味を感じます。当初の目標を大きく上回る台数を生産できるようになったのは、私の力ではなく、みんなの力です。まだ夢の途中ですが、これから自分の想いを発信し、周りを巻き込みながら引っ張っていきたいと思います。



## 最後に 明電グループの価値創造は 「人づくり」と「ものづくり」による「社会づくり」

**井上社長** 皆さんが話してくれたような前向きな意欲と社会を良くしていきたいという課題解決の意識、説得力や行動力が、明電グループの存在意義を高め、社会への価値還元につながると確信しています。そのために私が経営者として果たすべき役割は、明電グループを通じて皆さんが描く「夢」や「想い」が実現できる、そんな舞台づくりをすることだと思っています。多くの人たちから「明電グループと一緒に、より良い社会を創っていきたい」と選んでもらえるような会社にならなければなりません。また、明電グループで活躍する皆さんが、社会課題の解決に邁進し、夢を叶えていく姿を見せることが、多くの人

たちに「明電グループで働きたい」という求心力を生み出すことにもつながります。未来を夢見て働く姿こそ、人々を感動させます。未来は未確定だからこそ、皆さんの「夢」と「想い」が、より良い社会づくりへとつながるでしょう。その想いを企業理念やビジョンに束ね、押し出していくことで、より強い力へ変えられると考えています。今回の座談会を通じて、社会を良くしたいという皆さんの強い想いを受け取ったと同時に、それに向けた努力や抱えている悩みなども知ることができました。これからも皆さんの想いにも応えられるよう、制度や風土面も整えつつ、ありたい姿の実現に向けて明電グループを率いていきます。